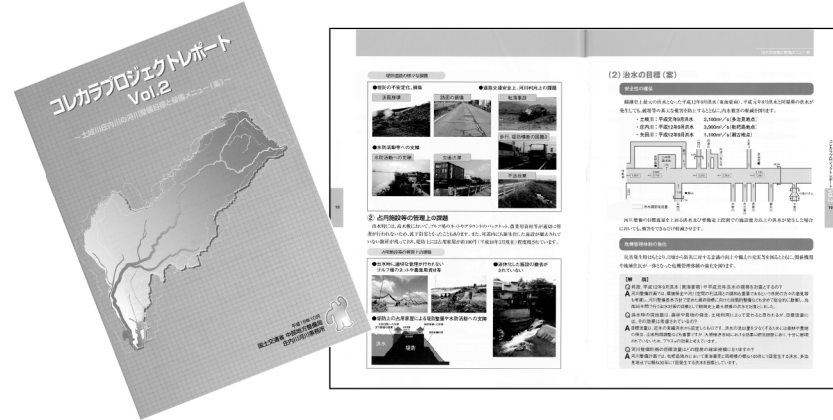


●コレカラプロジェクトレポート Vol. 2 ～土岐川庄内川の河川整備目標と整備メニュー（案）～



・防災は地方自治体の仕事であり、市町村の役割です。そのため、防災対策に対するモニタリングや評価、フィードバックの部分については、実施主体であるところの自治体との連携、意見交換、指導といったことができるような組織や体制を整えておかないといけないと思います。

事務局

・平成16年の災害を受けて、国と地方自治体の間では災害情報協議会や災害情報支援室など、さまざまな手法で国と地方自治体が協力し合っ、ハザードマップの推進や改良など、いろいろな取り組みが行われています。ただ、河川整備計画は、あくまでも河川管理者が自ら行うことを記載するものであり、それ以外のものは努力目標となって、どうしても役割分担の中で分かれてしまわざる得ないと思っております。

・河川管理者は、基本的な情報を出す側として、イニシアティブを図るところがどこかを考えて頂き、情報を使う側に使い方の注意という形でできる工夫があると思います。



○ 事務局からの提案議題

30年後の庄内川と新川の関係、新たな水質目標について、関係住民等からの意見聴取方法について説明し、主に次のような意見を頂きました。

[30年後の庄内川と新川の関係]



・庄内川から20m<sup>3</sup>/sを新川に回すことで庄内川が救われ、新川も問題がなければ、治水の方策として正しいと思われませんが、庄内川を救って、代わりに新川が危険になるのであれば、それはとれない方策だと思います。もっと小田井遊水地を拡大するとか、他の方策を考えなければ小田井側の人には納得できないのではないのでしょうか。

・庄内川から新川に20m<sup>3</sup>/s流すような事態は、庄内川の河川整備計画では100年に1度であり、30年に1度ぐらいのレベル（新川圏域河川整備計画（案）の整備目標）では、流すことを考えていません。しかし、庄内川からは、新川に対する原因者である限り、原因者は20m<sup>3</sup>/sを減らす努力をするべきだという提案がされています。



・将来的には0m<sup>3</sup>/sにするということで、新川をどんどん安全にするのは良いことですが、それによって庄内川が危険になることは当然受け入れられないので、庄内川を安全にした上で新川洗堰を閉めるのは当然だと思います。



[新たな水質目標について]

・他の河川では、水質をもう少し良くしていく努力をしましょうぐらいの記述で終わっているところを、目的に応じた指標を通じて努力するという書き方に一歩前進しましたが、まだ問題点が残っています。川の地点ごとで、生態系や親水面あるいは景観面のさまざまな水質目標を関連づけて工夫をすることで、住民運動等の兼ね合いやNPO、NGOに努力してもらいながら実施すれば効果が上げられる気がします。



[関係住民等からの意見聴取方法]



・意見を伺うことは重要だと思っています。ただ、川の問題というのは、調整問題であり、防災だけとって、極端な話をすれば、右岸が守られれば左岸が切れる、上流を守れば下流が危ない。ですから、少数の大きな声の人の意見が全体意見とされることに対しては、違和感を覚えます。



・意見をどの程度重要なものとして扱い、河川整備計画に反映させていくかによって、収集方法やお聞きする属性、極端なバイアスがかかっていないかというものが重要になってくるのではないかと思います。

・意見は属性のあるものと属性のないもの、いろいろなものが出てきます。これを目の前にして皆さん方に意見を言っていただき、最終的には流域委員会として、事務局にこういう形がいいんじゃないですかという話を、事務局に行政として判断してもらうという形にするということで、良いでしょうか。



○ 委員からの提案議題

河川整備のスケジュール（案）と庄内川の堤防詳細点検結果の概要について説明し、主に次のような意見を頂きました。

[河川整備のスケジュール（案）]

・このスケジュールだと枇杷島3橋より上流の皆さんにとっては、なかなか工事が行われないように見えます。この次の議題で、堤防の質的調査について聞いていますが、堤防の質的な問題のあるところや水防上危険な箇所の工事も行い、そのときには、近辺のアクセス改善もやっていく形にならないかなと思います。



[庄内川の堤防詳細点検結果の概要]



・この堤防の質的な評価の7割が良くないという話を聞いて、改めてこの問題は洗堰よりも、もっと重要なのではないかなと思いました。もう少し強調して河川整備計画（原案）に書いて頂くと思います。

・この30年間の計画では、堤防の嵩上げだけで、堤防の補強みたいなことは視野にないのですか。



事務局

・河川整備計画（原案）では、堤防の質的整備について実施することを考えています。最初に案を示した段階では7割の堤防が悪いという調査結果が分かっています。しかし、30年間でこの7割全てをやり切ることは、非常に難しいと思っています。

・今までの河川整備計画の整備メニュー（案）でも堤防強化は書かれていますが、概ね30年間の河川整備計画で必要な事業費ではできないこともあるので、対応を考えておく必要があります。

